常識のレベル

加賀政二郎

都合で，ここ西ドイツに住むようになって8ヶ月が過ぎた．この間，痛感したのが西ドイツと日本との常識の違いである．その中で最も苦労するのが，単語の持つ本来の意味を知らない非常識故の失敗である．単語力がないために，日本語訳が同じである単語を代用すると全く違う意味に解釈されてしまうことなどはザラである．なかには涙の出るような笑い話もある．ここでは，その単語の持つ社会的裏付けを常識として知った上で，厳密な単語の使い分けを要求されるのである．このような環境に置かれると，日本語の融通性のありがたさに感謝の念が湧いて来る．

常識の差について漠然と考えている時に，中国語学者の藤堂先生が亡くなられた旨を耳にした．先生は，個々の漢字が元来どのような社会的裏付けを持って生まれて来たものであるかを知る必要があり，これを知ることによってのみ漢文ひいては中国社会の本当の姿を理解出来る，というような旨のことを強調されていた．そして，「文字は文明進化の産物だなどと単純にありがたがるのは歴史を見る目を欠いている．中国の古い諺に＜文字が作られたとき人魂の忍びなく声が聞こえた＞とあるように，文字は文明の産物でありながら権力の仕組みの枠に人を押し込め，権威を押し付ける道具に使われる．文字はもともとはなはだ政治的な道具である」と述べられている．このような意図をもつ個々の漢字の成り立ちの社会的裏付けを知っているか否かの常識の差が，漢文の解釈に与える影響は大きいものがあろう．

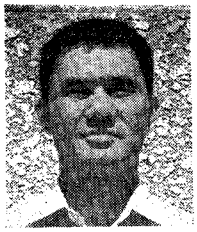
さて，コンクリート構造物の設計法の一つの考え方である限界状態設計法が世の中に浸透しつつある．現在，土木学会でもコンクリート標準示方書の改訂作業中であるが，この新示方書の設計思想の本流は限界状態設計法である．いずれは現在の許容応力度法のように常識化するものではあろうが，まもなくこれに直面するわれわれ設計実務担当者は，常識を現在のレベルから，示方書に記載された限界状態を基本とする一種の枠である設計法の正しい解釈が出来るレベルまで高める必要がある．また，示方書はこれが出来るような条文とその条文の社会的裏付けを述べた解説を持つものであって欲しい．

われわれ土木に携わる者は，常に設計施工技術全般にわたる常識の，時代に即応したレベルアップを要求されている．

（筆者・*Masajiro KOGA*，(株) 大林組土木本部設計部課長代理（在西ドイツ））

2つの橋——見果てぬ夢

中川辰也



サウジアラビアでのプラント建設を終って日本への帰途，かねてより訪れたいと願っていた英国はエジンバラ近郊のフォース新旧橋を訪ねる機会を得た．薄日さす5月のスコットランドは暑くも寒くもなく絶好の散策日よりで，わずか数時間であったが充実したひとときは忘れられない思い出となった．

空港からタクシーでフォース海峡に近づくと，まず道路橋のタワーが見えてきて初恋の人に出会うような興奮に捉われた．すぐに橋を渡るのは惜しいので，運転手に指示して海辺へと向った．突然街の屋根越しに鋼道橋のあの巨大な鋼鉄の塊りが圧倒するように迫ってきた．

私は思わず叫んだ．

「橋よ，お前はなんと美しいのか．人がお前を何と呼ぼうとお前の美しさは不滅だ．100年にわたってその存在を誇示してきたお前に憧れ，一目でも接したいと私ははるばる極東の国からやってきた．偉大なる橋よ」

するとそのとき雲間から太陽が顔を出し，橋の中央を明々と照した．あたかもそれは橋が私の呼びかけに答えてその美を最高までに見せようとしたかに思えた．

タクシーで道路橋を渡った後，こんどは2キロ弱の橋上をゆっくり歩いて戻った．歩きながら橋梁工学の進歩を思った．設計条件も構造も違うが70年の間に中央スパンは約2倍に伸びている．工学の進歩は偉大だと興奮ぎみに歩いていると，ハンガーロープのペンキを塗りかえているところへ来た．監督らしき男に「私は日本から来た土木屋だ．フォース湾の橋は両方ともすばらしい．こんな環境で仕事できるとは君はなんと幸せなんだ．」と呼びかけるとその男はけげんそうな顔をして言った．「お前は冬を知らない！」